

# 日銀の視点

味覚の秋を迎え、街角で「新芋」や「新栗」という言葉に初めて出合った。旬をきめ細かく伝える当地の表現の豊かさを感じる。

当地に赴任して約半年、経済調査では新型コロナウイルス感染症の県内経済への影響を把握し、分かりやすく伝えることに努めている。今回は、四半期ごとの統計調査（企業短期経済観測調査、通称短観）の茨城県内の結果も紹介しつつ、この間の県内景気の動き

日銀水戸事務所長 鈴木 直行

## 景気の動き表現丁寧

を振り返りたい。

最初に、企業の業況の推移を見たい。業況が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた業況判断指数（全産業）は6月に大きく悪化した後、

であろう。

このように経済への影響を見る際は、経済活動の「方向」と「水準」を丁寧に評価することが大事となる。原則月次で公表している「茨城県金融経済概況」では10月の景気判

のうち、水準はマイナス圏にあるが、その幅が縮小（改善）している状況を表現するとき

に、この言葉を使っている。続いて、景気判断の背景にある経済活動のうち、「持ち直しの動きがみられる」と表現した項目の動きを少し紹介したい。まず、個人の消費は大幅に減少

次に、企業の生産は大幅に減少した後、国内外で経済活動を再開する動きが徐々に見られる中で、10月に「持ち直しの動きがみられる」とした。

本県の生産は、大きく落ち込んだ後、上向いている自動車への依存度が低めなこともあり、全国と比べ、落ち込みが小さかった一方、回復ペースは緩やかとなっている。

9月に改善（3月▲7↓6月▲27↓9月▲13）。改善は2年（8四半期）ぶりながら、

断において、「厳しい状態が続いている」とした上で、「持ち直しの動きがみられる」という言葉を加えている。「持ち直し」という言葉は、一般にはあまりなじみがないかもしれない。景気のさまざまな局面

した後、巣ごもりやテレワーク関連の需要（食料品、家電など）が堅調なほか、7月以降、経済活動の再開や各種の支援策などにより、宿泊・飲食などのサービス消費に持ち直しの動きが見られる。

前述の短観の結果を見ると、県内企業は先行きについて慎重に見ている。引き続き、県内の皆さまの声を丁寧に伺いつつ、景気の動きを分かりやすくお伝えしたい。

後の2011年9月（▲11）並みにとどまっております。改善したという実感はまだ乏しい

直し」という言葉は、一般にはあまりなじみがないかもしれない。景気のさまざまな局面

直しの動きが見られる。

（今回は11月14日掲載）